

平成26年4月25日
海事局外航課
港湾局産業港湾課

2013年の我が国のクルーズ等の動向について

国土交通省では、2013年（1月～12月）の我が国のクルーズ等の動向を把握すべく、クルーズ船社や旅客船事業者、船舶代理店、旅行会社、全国の港湾管理者等へ調査を実施いたしました。その結果をお知らせいたします。

1. クルーズ人口

- ・2013年の我が国のクルーズ人口（日本人のクルーズ旅行利用者数）は、調査を始めてから過去最高となる23.8万人（前年比9.9%増、2.1万人増）となりました。
- ・外航クルーズ乗客数も、2013年6月に「ふじ丸」が運航を停止したものの、外国船社による日本発着外航クルーズが本格化したことから、調査を始めてから過去最高となる13.8万人（前年比14.8%増、1.8万人増）となりました。
- ・外国船社が行う短期（3～7泊程度）の外航クルーズを利用する者が増えたことから、外航クルーズの平均泊数が、9.3泊から7.4泊（1.9泊減）と短くなりました。
- ・今回は、日本発着の外航クルーズを利用する外国人数について、初めて調査を行いました。日本発着の外航クルーズを利用する外国人数は6千人となりました。
- ・一方、日本発着の外航旅客定期航路を利用した日本人乗客数は、円安等の影響により、前年比45%減の18.5万人となりました。

2. クルーズ船の寄港回数

2013年の我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数¹は、外国船社運航のクルーズ船が373回、日本船社運航のクルーズ船²が628回、合計1,001回（前年比104回減）となり、昨年より約1割減少したものの、2年連続で1千回を超えました。

- ・資料1-1 : 2013年の我が国のクルーズ等の動向について
- ・資料1-2 : 2013年の我が国のクルーズ等の動向について（図表編）
- ・資料2 : 2013年の我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数について
- ・資料3 : 日本船社運航の外航クルーズ船一覧、外航旅客定期航路就航状況

問い合わせ先

「1. クルーズ人口」 について

国土交通省海事局外航課 角（つの）、内藤

電話：03-5253-8111（内線43-344） 03-5253-8619（直通） 03-5253-1643（FAX）

「2. クルーズ船の寄港回数」 について

国土交通省港湾局産業港湾課 白戸、山口

電話：03-5253-8111（内線46-422） 03-5253-8672（直通） 03-5253-1651（FAX）

¹ 本調査では、船内1泊以上を対象としたクルーズ船の寄港回数を対象とし、日帰りクルーズは対象外とした。また、寄港回数には沖に停泊して乗客が通船で上陸した場合も含む。

² ふじ丸、飛鳥II、にっぽん丸、ぱしふいっくびいなすの4船を対象とした。

2013 年の我が国のクルーズ等の動向について

2013 年（1 月～12 月）の我が国のクルーズ等の動向に関するアンケート調査の集計結果をお知らせします。本調査は 1986 年以降、関係者¹からご協力を頂き、毎年実施しています。

1. 2013 年の我が国のクルーズ人口について（図表 1 参照）

◎ 2013 年の我が国のクルーズ人口²は、外国のクルーズ船社による日本発着外航クルーズが本格化したことから、外航、国内のクルーズ利用者がともに増え、23.8 万人（前年比 9.9%増）となりました。

2. 外航クルーズの動向について（図表 1～図表 4 参照）

◎ 「ふじ丸」が 2013 年 6 月に運航を停止した事に伴い、日本船社運航の外航クルーズ船利用者は 1.5 万人（同 20.7%減少）となりましたが、外国船社運航のクルーズ船利用者は 12.2 万人（同 21.6%増）と過去最高を記録し、合計でも 13.8 万人（同 14.8%増）と過去最高になりました。

◎ クルーズの目的別では、レジャー目的が 98.9%と、過去、最も高い割合を記録しました。

◎ クルーズの長さを示す泊数別では、外国船社が行うショート・クルーズを利用する者が増えたことから、3 泊～7 泊のクルーズ利用客が全体の 58.7%（前年比 3.7%増）を占めました。一方、14 泊以上のロング・クルーズ利用客は 3.1%減少したため、全体の人泊数は 102 万人・泊と、前年より 9.7 万人・泊減り、平均泊数も 7.4 泊と前年（9.3 泊）より 1.9 泊減少となりました。

◎ クルーズの方面別では、欧州地域全体で 40.6%（5.59 万人、うちバルト海 3 万人、地中海 2.4 万人）、極東ロシアを含むアジア地域で 40.4%（5.57 万人）の順となりました。地中海・アラスカ・カリブ海の 3 大クルーズエリアが約 1/4 を占めています。

3. 国内クルーズの動向について（図表 1、図表 5～図表 7 参照）

◎ 日本船社外航クルーズ船による国内クルーズ利用者は 9.8 万人、内航フェリー利用のクルーズ利用者は 0.2 万人の合計 10 万人（前年比 3.8%増、同 0.4 万人増）となりました。

◎ 目的別では、レジャー目的が 96.5%を占め、過去最高の割合を記録しました。レジャーのワンナイト・クルーズ利用客は、昨年比でほぼ倍増しました。

◎ 泊数別では、1 泊～4 泊のショート・クルーズ利用客が全体の 80.1%を占めました。昨年と比べ、カテゴリ 2（2 泊）の増加が目立っています。一方、カテゴリ 4（5～7 泊）及びカテゴリ 5（8～10 泊）も増加しているため、全体の人泊数及び平均泊数は前年並みの 28 万人・泊、2.9 泊となりました。

4. 外航旅客定期航路の動向について（図表 8 及び資料 3 参照）

◎ 日本発着の外航旅客定期航路を利用した日本人乗客数は円安等の影響により、18.5 万人となり、前年比 45%の減少となりました。

¹ 我が国クルーズ船社、外航クルーズ船社代理店、クルーズを含む海外旅行を取り扱う旅行会社及び国内旅客船事業者を対象（88 社にアンケートを依頼）とした。

² 外航クルーズと国内クルーズを合計した日本人乗客数。本調査では、船内 1 泊以上を対象とし、日帰りクルーズは対象外とした。国内クルーズは、日本船社の運航する外航クルーズ船による国内クルーズの乗客数及び内航フェリーによるクルーズの乗客数を合計した。